

第一〇九回楽々俳句会(ちば)

令和六年七月十一日(木) 晴

会場 支援センター九階 兼題「葭切・行々子」

投句三句 五句選

久武 1 整のはぬ十七文字や明易し 成子

久武 2 1 葭切や大利根いよよ潮路へと 武彦

武久 2 葭切や乱れぬオール水を切り 成子

武久 2 1 葭切の声撒き散らす水車かな 粹歩

武久 4 行々子鳴くや城下に火の灯り 粹歩

武久 葭切の啼く音さわやか利根下る さわやか・秋 利太郎

久 1 2 蜘蛛の糸宙を一途に編みてをり ミチ子

久 1 梅雨晴るる絵本に集ふ父子の会 今日子

久 1 挽ぎたてのトマトの色を丸かじり 洋子

久 山鳩の啼く丘の路文字ずり草 利太郎

久 夕暮のざわめく湖畔行々子 宣子

1 2 飛び石めく島々をたどりぬ瀬戸も夏 恵美子

1 2 飛び石めく島迪しや瀬戸も夏 飛び石めくだから島で良い 育子

1 2 待ちて鳴き降りて又鳴き行々子 鳴く 利太郎

1 1 高原に老の背包む雲の峯 静代

1 1 朝明けの静を打ち消す行々子 恵美子

3 雲払ふ日光キスげ真盛り 恵美子

3 瀬音径葭切らしき向こう岸 恵美子

2 紫陽花の途切れし道の淋しけり 粹歩

2 汗かきてぬれて着替えて続く日々 ミチ子

2 よしきりや矢切の渡し声の中 今日子

2 隠沼の静寂破らむ葭雀 隠沼(こもりぬ) 武彦

1 つきしづか葭切葭でねむりつく 弘子

1 極暑堪え蟻の行列逞しい 弘子

1 青年の颯爽と持つ藍日傘 宣子

1 愛犬や一番の涼独り占め 静代

1 手作りの公園に咲く芙蓉かな 洋子

1 行々子まどろみどきの声の中 ミチ子

1 座敷まで風に吹き抜け帰省かな 育子

1 お喋りの一族来たり行々子 武彦

1 河原の静けさのける行々子 久登

1 過ぎ去り日々偲びて茅の輪くぐり 今日子

過ぎし日や偲びし茅の輪潜りかな 豊隆

1 青空の窓一杯の木槿かな 豊隆

涼風や何れか先に散る木の葉

短夜のポツポツ斑入る果実かな

夏夜明け朝刊配るバイク音

明易し朝一の音朝刊来

道幅の帰宅の子等や行々子

雨明けて一気呵成も夏本番

お花畑北見の里に香るなり

雨上り

姿なき声の癒しや廬雀

葭切や捕逸の止まるところかな

チュンときて姿は見せぬ行々子

チュンは葭切に合わない

スーパーに水を買ふなり原爆忌

原爆忌スーパーに水買いにけり

(泣く) 悲しみ・苦しみ・喜びや痛さなどをおさえることができず、声をあげたり、涙を出したりする。「うれし泣きにーく」「大声をあげてーく」 「話に感動してーく」る。

(鳴く・啼く) 鳥・虫・獣などが声を出す。「虫がーく」「蛙がやかましくーく」「雉(きじ)もーかずば撃たれまい」

(鳴く) 物がきしんで音を立てる。「急カーブでタイヤがーく」「砂がーく浜」

参加者 成子・洋子・育子・宣子・静代・恵美子・ミチ子・弘子

豊隆・利太郎・粹歩・武彦・久登

投句 今日子 欠席 園子 信雄

次回予定 八月八日 (木) 吟行なし 兼題「原爆忌」活動センター

九月十二日 (木) 吟行なし 兼題「吾亦紅」活動センター